

## 総括

### ■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

### ■ 認定の種別

書面審査および12月8日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

### ■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」  
該当する項目はありません。

#### 1. 病院の特色

貴院は1981年の開院以降、外来増設、新棟増築など幾多の変遷を経て2007年には療養型病棟を回復期リハビリテーション病棟に転換し、リハビリテーション医療の発展を遂げてきた。

病院機能評価を継続的に受審しており、さらに質の高いリハビリテーション医療を提供するべく、今回は高度・専門機能（リハビリテーション（回復期））を受審され、医療の質向上に取り組んでいる状況を確認した。今後、貴院が一層、良質な回復期リハビリテーションを提供できるようさらなる発展につながることを期待したい。

#### 2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院の理念、基本方針は明確である。充実したリハビリテーション・ケアを提供できる職員が配置され、医師はリハビリテーション科専門医、リハビリテーション科専攻医が在籍し、リハビリテーション科専門医が回復期リハビリテーション病棟でサポートできる体制となっている。医療関連感染、急変時に対する取り組みは適切に行われている。医療安全管理者が医療安全管理指針に沿って統括し、安全管理室会議を開催している。インシデント報告書の記載の充実を期待したい。

回復期リハビリテーション病棟に関連する各種指標は、医事課が責任者として管理し、各種会議やホームページで情報共有している。自宅退院の患者には、退院後に看護・介護職が電話での聞き取り調査を行い、入院中の治療・ケア・退院支援の成果と課題を振り返る体制がある。各有資格者は委員会や専門カンファレンスなどに参画している。教育・研修の年間計画を立案し、回復期リハビリテーション病棟

全体として計画に基づいた教育・研修の実施と評価を行うことが望まれる。また、FIM 研修会は職種横断的に実施されているが、職員の出席状況を確実に把握することを期待したい。急性期病院や退院後の介護サービス事業者との連携は円滑に行われている。

### 3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

回復期リハビリテーション病棟に配属される医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、管理栄養士は専門的な役割・機能を発揮し、患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている。また、各職種は質向上に向けた活動として、自己研鑽、研修活動にも取り組んでいる。医師によるリハビリテーションの指示は、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を実施する以上の療法内容や頻度や単位数、個別のリスク、看護ケアに対しても医師の指示を確実に行うよう医師の業務手順を整備し、遵守することを期待したい。看護計画は健康状態が主体となっており、活動や参加など全体的な障害像を捉え、個人因子や環境因子も含めて計画を立案することを期待したい。また、「できる ADL」を、さらに朝や夕などの「している ADL」に反映されるように、特に更衣の実施など、療法士のリアルタイムの介入が期待される。

社会福祉士は全入患者のニーズを把握し、支援経過や課題を共有している。管理栄養士は入院時に全入院患者に対してスクリーニングとアセスメントを行い、栄養状態を評価している。毎日ミールラウンドで観察し、患者にとって最適な食事を提供できるよう他職種と協働して栄養指導を行っている。NST 活動や質向上に向けた取り組みは適切である。

### 4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

患者の全体像の把握においては、身体機能が中心となっている。入院後のリハビリテーション・ケアの展開や退院後の生活目標を入院前の活動に近づけるためにも、ICF の視点での活動・参加・環境因子・個人因子の評価が行われることを期待したい。入院当日に医師が原疾患、併存症、合併症を精査し、患者状態に応じて入院診療計画、リハビリテーション処方箋を作成している。各職種の初期評価は電子カルテ内で確認できるようになっている。初回のカンファレンスよりを早期に開催することを期待したい。

入院当日より毎日リハビリテーションを実施し、1 日平均 7 単位以上のリハビリテーションを行っている。病棟では、看護・介護職の朝の申し送りに療法士の代表が参加し、申し送りチェックリストを使用して ADL や自立度の変更、安全対策の変更・リスクなどについて、日々情報を共有し、リハビリテーション・ケアの進捗状況、医師の指示を確認している。

多職種によるケースカンファレンスを定期的に行い、療法士が中心となり、進捗状況を確認している。定期カンファレンスは各職種からの報告に留まらず、目標設定の達成状況を把握するなど、患者の個別の課題について十分に討議することを期待したい。新たな課題解決のため、定期的なケースカンファレンスに加え、臨時

カンファレンスを随時開催し、方針やゴールが決まらず難渋するケースなどについて、課題の整理や解決策を協議している。

入院早期より、自宅復帰後の生活機能を維持・向上させるための環境調整、家族への介助指導、余暇時間の活動などについて、多職種で検討している。各職種が入院の成果と今後の課題についてサマリーを作成し、かかりつけ医やサービス担当者に情報を提供している。退院前には退院前カンファレンスやサービス担当者会議を開催し、円滑に在宅サービスにつなげている。

# 1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

## 評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	Ⅱ
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	Ⅱ
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	Ⅱ
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	Ⅱ
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	Ⅱ
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	Ⅱ
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	Ⅱ
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	Ⅱ
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	Ⅲ
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	Ⅱ

## 2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

### 評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅲ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

### 3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

## 評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅲ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅲ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅲ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅲ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ